

わがまち  
歴史散歩

市史編纂より

幕末池田と「情報社会」

現代の私たちはテレビやインターネットを通じて、世界や日本の政治・経済の動き、あるいは災害の発生など、これらの情報をすぐに入手することが出来ます。安心な生活を保つためにも、情報は不可欠といって過言ではありません。このことはテレビやパソコンのない時代を生きていた人びとにとっても同じでした。今回は今から150年前の幕末という時代における「情報」に注目したいと思います。

「情報社会」としての幕末

1853年6月3日、浦賀沖（現横須賀市）に4隻からなるアメリカ艦隊が来航しました。いわゆるペリ来航。「黒船来航」です。この事件はまさに日本中を揺るがす大事件でした。

この黒船来航をきっかけとして、日本中にいろいろな情報が飛び交うこととなります。強大な軍事力を伴った外国艦隊の出現という未曾有の危機によって、人びとの不安が急激

に高まりました。日本はこれからどうなっていくのか。身分や階層に関係なく、日本中の人びとができるだけ多くの情報を求めて活動する。まさに「情報社会」とも言い得る社会状況が形成されたのです（詳しくは岩田みゆき『黒船がやってきた幕末の情報ネットワーク』吉川弘文館、2005年を参照）。

黒船来航の衝撃と池田

もちろん、池田の人びとも黒船来航に大きな関心を寄せていました。たとえば、当時中之町（現綾羽1・2丁目あたり）で商売を営んでいた稲束小兵衛は1853年6月15日付の日記に「浦賀港へ、北アメリカワシントンという所の商船4艘入港し、大騒動」と書き記しています（『池田市史』史料編 稲束家日記）。実際に来航したのは商船ではなく軍艦ですが、来航の場所や船の数など、ほぼ正確に情報をキャッチしていたことが分かります。

黒船来航の情報に接した小兵衛が気にかけていたのは、「この事件が戦争につながるのではないか」ということでした。6月18日には黒船来航に関してより詳しい情報入手しています。その情報をもとに「やはり交易を望んでいる」とのこと、軍兵（＝戦争）などのことはあるまじく存じ候」という予想を記しています。また、商人である小兵衛としては、商業への影響も非常に気になるとこ



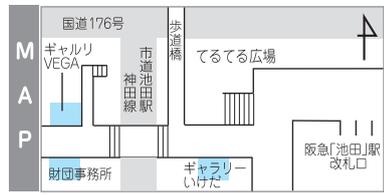
稲束小兵衛の肖像画

ろでした。アメリカ艦隊が江戸湾（現東京湾）にとどまることによって、商業が停滞してしまうことを懸念しています。

それでは、稲束小兵衛はどのような生活を送っていたのでしょうか。6月15日の日記に、小兵衛は大阪の商人たちと談話したと記しています。また、6月18日の日記については、大阪から来た商人茶碗屋伊兵衛の話が情報源だったようです。

全国的な規模でさまざまな商品が流通していた江戸時代後期、この流通網を通じて、商人たちは商品とともに多くの情報を交換していました。黒船来航の情報も、この商人同士の情報ネットワークによって、稲束小兵衛のもとに届いたものと考えられます。「情報社会」のなかで、幕末の池田もまた、激動の時代の渦に巻き込まれていくこととなるのです。（日本学術振興会特別研究員・後藤敦史）  
問い合わせは生涯学習推進課市史編纂（754・6674）

ギャラリーコーナー



【ギャラリーいけだ】

黒川文字水墨画展	~ 4/2
第53回池田市美術展（書）	4/8 ~ 14
川辺浩個展（絵画）	4/18 ~ 23
中谷伸次個展（絵画）	4/25 ~ 30

【ギャルリVEGA】

手作り作品展（西山、長谷、下口）	~ 4/2
手仕事の仲間展（大野博史・久美子、藤沢裕子、有原和代）	~ 4/2
第53回池田市美術展（絵画）	4/8 ~ 14
伊澤友梨墨彩画教室作品展	4/18 ~ 23
手描き染色しらゆり会作品展	4/25 ~ 30

【開館時間】10：00～19：00（最終日は16：00まで、池田市美術展は10：00～17：00で最終日は15：00まで）  
【休館日】火曜日（4/10は除く）  
【入館料】無料  
【使用料】  
ギャラリーいけだ 5万円（展示販売不可）  
ギャルリVEGA 15万円（ブロックの分割使用＝7・10万円＝、展示販売も可）  
【使用期間】水～翌週月曜日の6日間  
【申し込み】使用希望月の1年前から

使用申し込みは  
いけだ市民文化振興財団  
（750・3333）

わがまち  
歴史散歩

市史編纂だより 娼

「諸国稀代大變の事」

急速に進む国際化と国内を襲う大きな災害……。このように書くとき、まさに現代日本の状況を表わしているようです。しかし、実は約150年前の幕末といわれる時代もまた、国際化の波と災害に人々が直面した時代でした。その幕末の時代、今在家村（現豊島南辺り）で庄屋を務めていたのが、中田治左衛門という人物です。激動の時代の中で、彼は多くの出来事を記録に書きとどめました。

黒船来航と治左衛門

1853年6月3日、浦賀沖（現横須賀市）にペリー率いるアメリカ艦隊が来航しました。この事件をきっかけに、日本社会は大きく揺れ動くこととなります。

アメリカ使節ペリーは1854年1月に再び江戸湾に来航し、同年3月、徳川幕府とアメリカとの間で日米和親条約が結ばれます。治左衛門が書き残した記録の中に、『亜黒利加再来入』という史料があります。これはこの一連の事件について、自

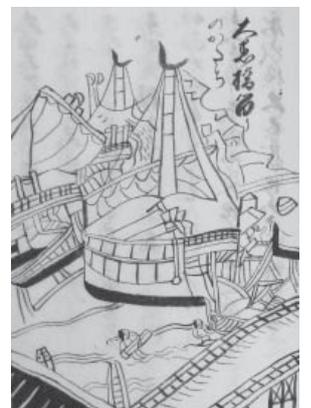
分で集めた情報を基に治左衛門が作成したものです。

この中にはたくさんの方が記され、例えば「亜黒利加詞」と題して、英単語まで書かれています。しかし、「めでたい」を「きんば」「うれしい」を「さんちよる（Thank youのこと）」と書くなど、英単語についてはあまり正確な情報ではなかったようです。それでも「集めた情報」とにかく記録に残しておこう」という治左衛門の熱い思いが伝わってきます。

治左衛門はその記録の中で、アメリカ艦隊の帰帆によって動員された人々も故郷に帰ることができ、「いよいよ国穏やかに相成り候」と書いています。しかし、日本の歴史はこの黒船来航以後にこそ、「穏やか」ならぬ激動の時代に入るのでした。

安政の東南海大地震

1854年11月、東海大地震（4日）と南海大地震（5日）が起きました。この大地震により、日本列島全体が大きな被害を受けました。治左衛門はこの大地震についても「諸国稀代大變の事」という史料を書き残しています。このタイトルのとおり、大地震は「稀代大變」の事態をもたらしました。5日の大地震により、大阪湾には津波も襲います。地震と津波という二重の大災害を前に、治左衛門は「書くも言うも休むこと、あたわず」と書いています。



「安政の南海大地震の絵」

また『諸国稀代大變の事』の最後に、彼は次の歌を書き記しました。「とやかくと 思ひし心 あだ事よ 地震津波を見るにつけても」

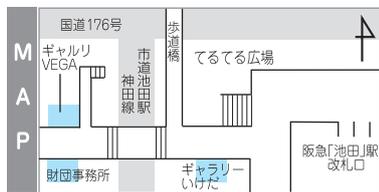
これは、地震・津波という災害を前にすると、あれこれ考えることも無駄なことのように感じる……という意味です。しかし、治左衛門の「絶望」を表わしたものではありません。むしろ、あれこれと不安に考えず、とにかく今の時代を生きるんだという彼の決意すら感じられます。

その証拠に、治左衛門の残した史料をたくさん含む「今在家村中田家文書」からは、明治維新ごろまで実際に庄屋の仕事を行いながら激動の時代を生き抜いた、彼の確かな「足跡」をたどることが出来ます。それは、同じように「大變」な時代を生きた現代の私たちに向けた、幕末の池田を生きた一人の人物からの「メッセージ」ともいえるでしょう。

（日本学術振興会特別研究員・後藤敦史）

問い合わせは生涯学習推進課市史編纂（753・6674）

ギャラリーコーナー



【ギャラリーいけだ】

長井正義・森邦彦 二人展	5/2 ~7
- 写生から抽象への展開 - 第30回あおにしちかこ展	5/9 ~14
兄・妹展（角田郁夫・伊澤友梨）	5/16 ~21
吉岡律子絵画展	5/23 ~28
鍛冶ゆう子作陶展	5/30 ~6/4

【ギャルリVEGA】

アトリエMORI作品展	5/2 ~7
2012 ザ・スペース小品展	5/9 ~14
米倉健史 キルトアート教室生徒展	5/16 ~21
近藤雄士 木の家具展	5/16 ~21
大阪空港カルチャースクール・箕面駅前スクール第10回合同展	5/23 ~28
工房 悠 作品展	5/30 ~6/4

【開館時間】10：00～19：00（最終日は16：00まで）

【休館日】火曜日

【入館料】無料

【使用料】

ギャラリーいけだ 5万円（展示販売不可）

ギャルリVEGA 15万円（ブロックの分割

使用＝7・10万円＝、展示販売も可）

【使用期間】水～翌週月曜日の6日間

【申し込み】使用希望月の1年前から

使用申し込みは  
いけだ市民文化振興財団  
（750・3333）

わがまち  
歴史散歩

市史編纂だより(83)

端午の節句に豆芝居

5月5日は端午の節句、池田では旧暦に合わせて一月遅れの6月5日に祝うことが多かったそうです。そのころ行われたのが豆芝居です。といっても懐かしいと覚えておられるのは、もう年配の方だけでしょうか。

端午の節句に邪気払い

さて、節句の前日の6月4日、池田ではヨモギ・センダン・シヨウブを束ねて屋根に放り上げて夜露を受け、翌日はそれでシヨウブ湯をたてたそうです。



にぎわう呉服座

す。ヨモギ・センダンは整腸・鎮痛・駆虫・止血に効き目のある薬草の上に香りが強い。尚武に通じるシヨウブとともに、邪気を払い一年の健康を念じました。頭に巻くと頭痛が治るとの言い伝えもあります(『新修池田市史』第5巻)。

端午の節句は午の月の初午の日、午と五が重なる重日でありわけ忌むべき日でしたから、邪気を払う必要があったのです。

豆芝居の季節

端午の節句時はムギが黄ばみ、畔にソラマメが実るころ。田起こし・代かき・苗代作りと早春から続いた春の農作業が一段落する時期で、田植え前の骨休みに芝居見物。豆芝居という年中行事がありました。池田学講座「明治大正の文学と池田」(平成19年11月18日開催)の中で、肥田皓三先生が池田の俳人・波々柳雨が書いた「豆芝居」(『倦鳥』大正10年8月)を俳句とともに紹介されています。

「池田・伊丹を中心として豊能・川辺郡にわたるのに限り行はれてある」農家はもちろん商家の雇い人にも楽しみな行事だったといい、これを詠んだ句も載せています。「待ち兼ねし年の行事の豆芝居」(君女)「豆芝居あたりの麦は黄ばみけり」(青々)「豆芝居豆の飯して日暮らせり」(柳雨)。「豆ご飯を重箱に詰め、一升瓶も提げて、一日芝居を楽しんだ様子が目に浮かびます。」

呉服座で芝居見物

巡業の一座を迎える所もあつたでしょうが、池田には常設の芝居小屋があつたので、そこで豆芝居向けの興行が掛かりました。昭和10(1935)年ごろには、呉服座に豆芝居見物に行くことが年中行事だったといえます(『池田・昔ばなしと年中行事』ほか)。呉服座は西之口の呉服橋の南、猪名川堤防沿いに明治25(1892)年に移築あるいは改築され、回り舞台に広い花道を持ち、平場・出席・棧敷と定員350人ほどもある立派な芝居小屋でした(『新修池田市史』第3・5巻)。

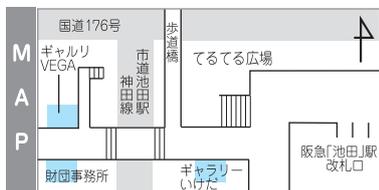
豆芝居が近づくと、赤パツチをはいた東西屋(チンドン屋)が「オバンの好きな豆芝居、さあよいよ始まり始まり」と、芝居興行を触れ回ります。猪名川の河原まで幟が立ち並び、池田だけでなく豊中・箕面・川西・能勢などから客を集め、多い日には呉服橋まで人の波が続きました。演目は「忠臣蔵」「お染久松」「八百屋お七」など、毎日変えて、興行は10日間ほど続きます。しかしその呉服座も昭和44年に閉鎖され、豆芝居の伝統は廃れました。

豆芝居が終わると今度は田植え、梅雨の季節となります。そこで柳雨「豆芝居」からまた一句。「豆芝居果てて池田の夏の雨」(無山人)。

(池田市史編纂委員会専門委員・植木佳子)

問い合わせは生涯学習推進課市史編纂(754・6674)

ギャラリーコーナー



【ギャラリーいけだ】

鍛冶ゆう子作陶展	~ 6/4
山路均 第四回 油彩展	6/6 ~ 11
祐紀油彩画展	6/13 ~ 18
塩屋信敏「犬と椿のコラボ展」(絵画)	6/20 ~ 25
高村喜美子作品展	6/27 ~ 7/2

【ギャラリーVEGA】

工房 悠 作品展	~ 6/4
岡田元史・大和絵展	6/6 ~ 11
本荘正彦 花彩りの木版画展	6/13 ~ 18
ジャポニズムモダン in 半蔵作品展	6/20 ~ 25
池高七期のアートな仲間展	6/20 ~ 25
川口もと子・川口恵 二人展(絵画)	6/27 ~ 7/2

【開館時間】10:00~19:00(最終日は16:00まで)

【休館日】火曜日

【入館料】無料

【使用料】

ギャラリーいけだ 5万円(展示販売不可)

ギャラリーVEGA 15万円(ブロックの分割使用=7・10万円=、展示販売も可)

【使用期間】水~翌週月曜日の6日間

【申し込み】使用希望月の1年前から

使用申し込みは  
いけだ市民文化振興財団  
(750・3333)

わがまち  
歴史散歩

市史編纂だより 嬌

討幕戦争と池田の人々

幕末から維新にかけてのころって面白いですね。黒船はやってくるわ、坂本龍馬は活動するわ、新選組は暴れるわ…。要するに徳川時代の幕藩体制が行き詰まり、それに代わって明治政府が生まれ、いろんな人が自分の個性とその能力を発揮した時代なんです。生き生きしています。

この時代のことをテーマに本を書いたら読まれるし、テレビでドラマを作ったら大勢の人が見てくれます。何とも面白いものです。

では、当時池田の町やその周辺の村々に暮らしていた人たちにとって、この時代はどういうものだったのでしょうか。

飛脚来りよ...

池田の稲束家の日記には、慶応4(1868)、この年9月から明治と改元)年1月早々、京都に近い鳥羽・伏見での合戦、また淀・八幡・橋本などでの幕府方の敗北の様子、あるいはその直前に起こった大阪市中の騒動についての聞き書きが記録され

ています。

「將軍会津付添い大坂御城明渡しにて、紀州どのへ落ち行候風聞これあり」とか、「大坂わたし船往来とまり、飛脚来らず」とか書かれています。池田でも大変な騒動だったことは間違いありませんね。

必ずしも正確な情報が届いていたわけではなさそうですが、それでも、政権の動向は気になったのです。一生懸命に情報を取ろうとしているではありませんか。

池田にも薩摩藩兵士駐屯

しばらくすると薩長側の政権確立は間違いないことが分かってきます。何よりも薩長それぞれから池田へも通達が回って、天皇の政権が出来上がったこと、前將軍・徳川慶喜はそれに刃向った「朝敵」「賊将」として追討令を発せられたことが知られます。これが1月13日のこと。

そして、それに続いて武装した長州藩の兵士たちが郷蔵を点検して、納め残りの年貢米を封印して回ったり、薩摩藩の兵士が警備のため池田の町に駐屯したりするようになります。

新政権の受け入れ

こうなれば、もう疑うことはなくなりですね。池田の町やその周辺の村々の人々も、新しい天皇の政権の存在をおとなしく受け入れます。

稲束家も3月3日には「ひいな祭



稲束家日記

り祝い」を行い、これには近所の娘や子どもが22人も遊びに来ています。また、同月24日には「天子様大坂へ御着き、御堂泊り」といった記事も出てきます。8月27日には天皇の即位のため、商売を休み、軒にはちようちんをつつてお祝いをしたことも書かれています。

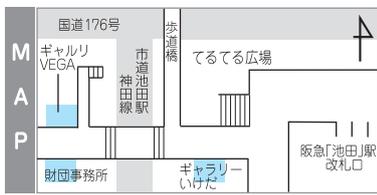
池田の町やその周辺の村々の人々は政権の変動の渦中に割って入ろうとはせず、受け身だったということですね。

(池田市史編纂委員会副委員長・小田康徳)

問い合わせは生涯学習推進課市史編纂(754・6674)

新修池田市史は好評発売中です。ぜひ、お買い求めください。

ギャラリーコーナー



【ギャラリーいけだ】

- 高村喜美子作品展(絵画) ~7/2
- 大石美都里展(絵画) 7/4 ~9
- お〜い雲 12 碇貴代司 パステル画展 7/11 ~16
- DREAM 川口美治(工芸) 7/18 ~23
- 第5回野村よしお個展(絵画・パルーンアート) 7/25 ~7/30

【ギャルリVEGA】

- 川口もと子・川口恵二人展(絵画) ~7/2
- 版:女子会(版画) 7/4 ~9
- トールペイント 池田バラの会 7/4 ~9
- 第12回ACF川西写真展「四季の山野草と花華」 7/11 ~16
- ギャルリVEGA真夏のサムホール展・前期 7/18 ~23
- ギャルリVEGA真夏のサムホール展・後期 7/25 ~7/30

【開館時間】10:00~19:00(最終日は16:00まで)

【休館日】火曜日

【入館料】無料

【使用料】

ギャラリーいけだ 5万円(展示販売不可)

ギャルリVEGA 15万円(ブロックの分割

使用=7・10万円=、展示販売も可)

【使用期間】水~翌週月曜日の6日間

【申し込み】使用希望月の1年前から

使用申し込みは  
いけだ市民文化振興財団  
(750・3333)



市史編纂だより(85)

## 「教育のまち池田」を支えた市民の善意

「教育のまち池田」といわれる背景の一つに、市民の強い教育への関心があります。その一例が池田市独自の奨学金制度といえるでしょう。家庭の経済的事情で勉強を続けるのが困難な子どもたちには、国や市の援助制度がありました。本市ではそれに加えて、市民の善意によって拠出された基金をもとにした奨学金があります。

(本文敬称略)

### 武田育英学資金

昭和40(1965)年、戦後初の公選市長であった武田義三は「経済的ゆとりがない家庭の小・中学生に」と10万円を寄付、市は武田育英基金を設立し、小・中学生を対象とした奨学金を制度化しました。その後、武田市長の功績をたたえる像を建立するための寄付を募った時に、予定額を超える寄付金が集まり、その内の90万円が基金に寄付されました。

昭和44年に生存者叙勲を受けた武田義三は「受賞は市民のおかげ」と述べ、さらに20万円を基金に寄付しました。現在、市立小・中学生各校1人が受給しています。

### さつき奨学金

昭和45年、神田の一市民から、父母と妻の法事に際しその供養にと、匿名を条件に500万円が寄付されました。「家庭の事情で中退している中学生や高校進学をあきらめている中学生のために」という意向を汲み、市は「池田市奨学金」を設立し、高校生を対象とした奨学金を制度化しました。

昭和47年には匿名の老人から「高校生の奨学金に充ててほしい」と、100万円の有価証券が寄付されました。寄付者の意を受け、高校生を対象とした「さつき奨学金」として制度化され、平成8年度からは「池田市奨学金」と一体化して運用されることになりました。その後、市民の善意の寄付が蓄積され、現在高校生12人が受給しています。

### くすのき奨学金

昭和54年には市を「第2の故郷」と呼ぶ篤志家の水本利光から、奨学金と現金1億円の寄付がありました。水本はその動機を「勉強しなくても、十分な教育を受けられなかった青春時代の悔しさ」を思い出し、次代を担う若者の教育資金に」と語り

各奨学金の基金額および1人当たりの受給額

区分	武田育英学資金 (武田育英基金)	さつき奨学金 (池田市奨学金)	くすのき奨学金 (水本教育振興基金)
基金額	1,200,000円	8,372,796円	107,667,415円
1人当たりの受給額	小学6年生 5,000円/年 中学3年生 10,000円/年	高校生私立 5,000円/年	大学生 10,000円/月 高校生公立 3,000円/月 高校生私立 5,000円/月

基金額は23年4月1日現在。受給額は23年度当初予算

ました。その意向を受けて、市は水本教育振興基金を設け、大学生と高校生を対象とする「くすのき奨学金」として制度化しました。現在、大学生への給付型奨学金は珍しくなっており、大学生29人、高校生127人が受給しています。

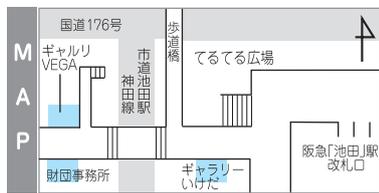
### 経済的事情を要件に

これらの奨学金は、拠出された基金や池田市の一般財源で充てられ、池田の子どもたちの教育を支援しています。なお、奨学金の受給要件にあった「人物・学業共にすぐれ、かつ健康な者で学資の支弁が困難な者」という規定は、今では経済的事情と人物評価が主な要件になっています。

(池田市史編纂委員会専門委員・横山篤夫)

問い合わせは生涯学習推進課市史編纂(754・6674)

## ギャラリーコーナー



### 【ギャラリーいけだ】

- 奥畑 司 油彩展 8/1 ~ 8/6
- 和紙のちぎり絵二人展(小山清子・池添小夜美) 8/8 ~ 13
- きもの座京都 作品展I(大東伸・鳴瀬直幸) 8/22 ~ 27
- きもの座京都 作品展(鈴木啓子・光永鴻皇) 8/29 ~ 9/3

### 【ギャラリーVEGA】

- カルチャーVEGA教室 夏展 8/1 ~ 8/6
- 古本有理恵展~緑の在るところ~(銅版画) 8/8 ~ 13
- ki:ki工房「板モノ箱モノ展」 8/22 ~ 27
- 大阪大学美術部 夏部展 8/22 ~ 27
- 黄嘴会展(絵画) 8/29 ~ 9/3

【開館時間】10:00~19:00(最終日は16:00まで)

【休館日】火曜日・8/15 ~ 8/20

【入館料】無料

【使用料】

ギャラリーいけだ 5万円(展示販売不可)

ギャラリーVEGA 15万円(ブロックの分割使用=7・10万円=、展示販売も可)

【使用期間】水~翌週月曜日の6日間

【申し込み】使用希望月の1年前から

使用申し込みは  
いけだ市民文化振興財団  
(750・3333)



『新修池田市史』 完結  
別巻（年表・索引編） 刊行

このほど『新修池田市史』シリーズの最終巻となる別巻（年表・索引編）を刊行。平成5年から編さん作業を進めてきた『新修池田市史』全6巻が完結しました。

池田の歴史の全貌が

これまで刊行した本文編は全5巻。池田の考古・古代・現代に至る歴史をはじめ、地理や民俗など、さまざまな事柄を紹介しています。写真や図版も多く取り入れ、分かりやすく多面的に記述しており、今のところ池田の歴史の一番詳しい図書といえます。皆さん、もうお読みいただきたいでしょうか。

詳細な年表も満載

今回の別巻は、この本文編の成果を存分に盛り込んだ池田の詳細な年表を取っています。また、本文編には載せることができなかった事項も新たに加え、一層充実。これだけ多

くの出来事をまとめた年表の発刊は、池田では初めての試みです。本文編すべてに目を通すのはなかなか大変という方でも、この年表なら眺めるだけで池田の歩みが一目りよう然。さらに、時代の流れに沿って歴史をたどることができ、本文編だけでは見えなかった新たな発見があるかもしれません。

約5000項目の索引

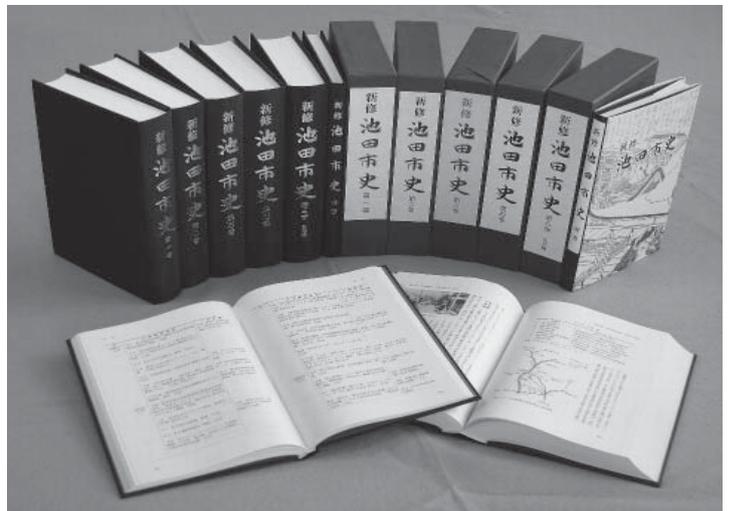
本文編の総ページ数は約4000ページ。そのため、各巻の目次だけでは読みたい場所が見つけれない場合もあります。

そこで、索引語句として、約5000項目を厳選。関連項目も併記することで、より見つけやすいように工夫しました。

ふるさと池田の基本図書

今回の刊行で『新修池田市史』は完結しました。これまで資料提供など、多大なご協力をいただいた皆さんに改めて感謝するとともに、この『新修池田市史』が、ふるさと池田の歴史と文化を知る基本図書として、一人でも多くの方の役に立つことを願っています。

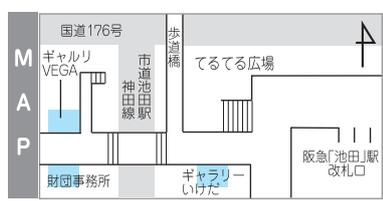
なお、今後は収集したたくさんの史料の中から、近代・現代に関する史料編を作成する予定です。引き続き、市史編さんにご理解とご協力をお願いします。



お求めはこちら

販売場所 Ⅱ 市役所（総合窓口課、生涯学習推進課）、歴史民俗資料館、市民文化会館、カルチャープラザ、いけだ市民文化振興財団、耕文堂書店、甲川正文堂、ブックファースト池田店など 販売価格 Ⅱ 第1巻（地理・考古・古代・中世編）3500円、第2巻（近世編）4200円、第3巻（近代編）5400円、第4巻（現代編）6000円、第5巻（民俗編）4500円、別巻（年表・索引編）1500円  
問い合わせは生涯学習推進課市史編纂（☎754・6674）

ギャラリーコーナー



【ギャラリーいけだ】

- きもの座京都作品展（Ⅱ）（鈴木啓子・光永鴻皇） ～9/3(月)
- 華実 河野俊也(絵画) 9/5(水)～10(月)
- 水彩画・油絵で綴る絵日記 吉井正明展 9/12(水)～17(祝)
- 白井武志 水彩画展 9/19(水)～24(月)
- 佐々木和子 個展(絵画) 9/26(水)～10/1(月)

【ギャルリVEGA】

- 黄嘴会展(絵画) ～9/3(月)
- 木々を見上げ水辺にたたずむ 久保田敬英展(絵画) 9/5(水)～10(月)
- 第12回グループ“翔”展(絵画) 9/12(水)～17(祝)
- 北浩二 絵画教室展 9/19(水)～24(月)
- 第11回深山会会員展(書) 9/26(水)～10/1(月)

【開館時間】 10：00～19：00（最終日は16：00まで）

【休館日】 火曜日

【入館料】 無料

【使用料】

〈ギャラリーいけだ〉5万円（展示販売不可）

〈ギャルリVEGA〉15万円（ブロックの分割

使用＝7・10万円＝、展示販売も可）

【使用期間】 水～翌週月曜日の6日間

【申し込み】 使用希望月の1年前から

使用申し込みは  
（財）いけだ市民文化振興財団  
☎750・3333



市史編纂だより⑧

## 運動会

今年も運動会シーズンがやってきましたね。「よいドン」で飛び出す駆けっこや、綱引きにダンス…。今からとっても楽しみです。ところでこの運動会、いつから始まったのかご存じですか？

### 運動会の始まり

日本で初めての運動会は、明治7(1874)年3月、東京の海軍兵学寮で開催された「共闘遊戯会」だといわれています。外国人教師らの指導のもと、150ヤード(約137m)競争、走り高跳び、ボール投げなどが行われました。

これ以降、明治11年には札幌の農学校で「力芸会」、同16年には東京大学で「運動会」、同17年には体操伝習場で「東京体育会」が開催されました。

### 河原の合同運動会

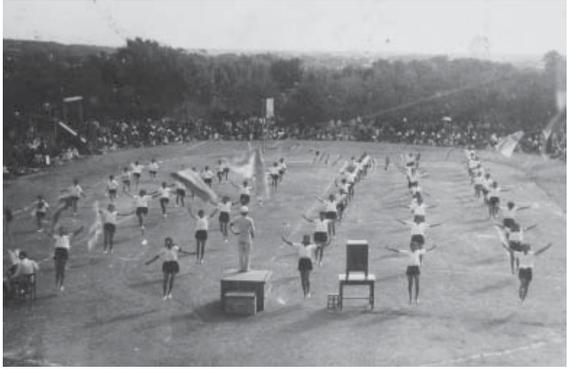
全国の小・中学校に運動会が普及したのは、明治の中ごろ以降です。

明治18年に文部大臣に就任した森有礼が、日本の教育システムを形作っていく過程において、児童・生徒の身体と規律訓練のため、体操科を教育科目として推進し、運動会を行うように奨励したことによります。

現在分かっている本市の一番古い運動会は、明治20年3月27日に猪名川の兵庫県側河川敷にある「小戸河原」で、池田と細郷(現細河)、市場(現北豊島)の三つの小学校が合同で開催したものです。当時、運動会の実施場所はほとんどが校外の河原・丘・神社の境内などでした。地域の学校も例外ではなく、池田小学校ではこれ以後もたびたび猪名川の河原を使っていましたし、細河地域では久安寺境内を使用した記録が残っています。また、変わったものとしては、同24年に豊能高等小学校(現池田小学校)の寮生により呉服橋付近で観月を兼ねた夜の運動会が開催されています。

### スプウンレース

明治36、38年の間、池田にあった府立池田中学校の同36年11月3日の記録には、競技内容が残されています。「四五〇<sup>リットル</sup>突競争・柔道・撃剣・二人三脚・戴囊・蛙飛・スプウンレース・提灯競争・綱引き」など、今では良く分からないものから現在でも親しまれているものまで、さまざまです。この運動会、とても大勢の見物人が訪れ、中学校の生徒だけで



昭和10年秦野小学校秋季運動会 (石田健治氏提供)

はなく、小学生や職員の子ども・来賓なども競技に参加したそうです。運動会が地域の恒例行事として親しまれていた様子がうかがえます。

全国各地においても、地域住民の日常における祭りのような一大イベントとして親しまれていきました。このため、一般的に運動会は地域住民に対して、体操による身体向上の重要性についての認識を周知させるだけではなく、洋服の普及や就学率の向上を促すなど、地域社会に対してさまざまなことをアピールする場ともなり、世界には類を見ない日本独特のスポーツイベントとして定着していきました。

〔新修池田市史〕第3巻分担執筆・関根則子

問い合わせは生涯学習推進課市史編纂 (☎754・6674)

## ギャラリーコーナー

MAP: 国道176号、市道池田線、歩道橋、てるてる広場、阪急「池田」駅改札口、財団事務所、ギャラリーいけだ

<p><b>【ギャラリーいけだ】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 佐々木和子個展 (絵画) ~10/1(月)</li> <li>● 汪洋洋画展 10/3(水)~8(祝)</li> <li>● たちおか帽子「墨絵」展 10/10(水)~15(月)</li> <li>● 水野保雄作品展 (絵画) 10/17(水)~22(月)</li> <li>● 猿渡士郎個展 (絵画) 10/24(水)~29(月)</li> <li>● 出口彰水彩画展 10/31(水)~11/5(月)</li> </ul>	<p><b>【開館時間】</b> 10:00~19:00 (最終日は16:00まで)</p> <p><b>【休館日】</b> 火曜日</p> <p><b>【入館料】</b> 無料</p> <p><b>【使用料】</b>                  &lt;ギャラリーいけだ&gt; 5万円 (展示販売不可)                  &lt;ギャラリーVEGA&gt; 15万円 (ブロックの分割使用=7・10万円=、展示販売も可)</p> <p><b>【使用期間】</b> 水~翌週月曜日の6日間</p> <p><b>【申し込み】</b> 使用希望月の1年前から</p>
<p><b>【ギャラリーVEGA】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 第11回深山会会員展 (書道) ~10/1(月)</li> <li>● 喜多晴子美術工芸盆栽作品展 10/3(水)~8(祝)</li> <li>● 安食慎太郎個展 (絵画) 10/10(水)~15(月)</li> <li>● 近藤雄土木の家具展 10/17(水)~22(月)</li> <li>● 第35回 彩赤会展 (絵画) 10/17(水)~22(月)</li> <li>● 彩友会・KO絵画研究会合同作品展 (絵画) 10/24(水)~29(月)</li> <li>● 江原和足展“大阪にのこる街道風景”(絵画) 10/31(水)~11/5(月)</li> </ul>	<p style="text-align: center;">使用申し込みは                  財いけだ市民文化振興財団                  (☎750・3333)</p>



市史編纂だより⑧

『池田酒史』の誕生

大演習がきつかけで

現在、大阪大学豊中キャンパスがある待兼山の頂上に、左写真の碑があります。大正8（1919）年11月に摂津・播磨で陸軍特別大演習が行われた際、大正天皇が統監として待兼山を訪れたことを記念し、豊能郡によって建立されたものです。豊能郡にとって、大演習と行幸が一大イベントであったことがうかがえます。

ところで、この大演習は池田の銘品である酒（池田酒）と、深いつながりを持っています。大演習に当たって、当時池田在郷軍人分会会長で



待兼山山頂の記念碑

あった北村儀三郎が、地方の史蹟について御前講演を命じられ、同年11月14日に講演を行っています。これを記念して作成されたのが、『池田酒史』なのです。

皇室・皇族へ献上

『池田酒史』の編纂には、池田史談会が当たりました。同会は、池田近隣の地理・歴史の研究を目的として、池田の旧家・宮司・町長らによって作られた組織で、今の池田郷土史学会の前身に当たります。

史料は、素封家として名高い稲束家の第十代当主で、史談会の会員でもある稲束芝馬太郎が所蔵する文書が主に用いられたほか、同じく会員の森万太郎からも提供されました。9月15日に調査が開始され、10月10日には早くも編纂が完了しています。

11月に特製と並製の二種類が作られ、特製版は皇室と皇族への献上本とされました。池田の酒造史料を現在にまで伝える貴重な成果が、大演習を契機として生まれたのです。

池田酒史とその修正

『池田酒史』は「総説」「池田酒造の沿革」「交通」の三編から成り、最後に北村儀三郎による講演の原稿などが収められています。しかし、江戸中ごろの伊丹の醸造高については「実に微々たるもの」と極めて低く評価しており、後に伊丹の酒造家・岡田利兵衛から、そのような評価は

錯誤であるとして抗議を受けています。また、編纂期間が短かつたため、稲束家や森家以外が所蔵する史料はあまり参照されませんでした。講演に間に合わせるための「突貫工事」が、結果的に、『池田酒史』の内容を不十分なものにしてしまったのです。

ただし、これらの問題点については、池田史談会も認識していたようです。巻頭の「例言」には、「史料の収集と分析が思うように進まなかったため：他日の修正を期したい」と記されています。戦後における池田小西家の酒造史料の発見は、その「修正」の端的な例であり、史料を執念深く追跡することの大切さを物語るエピソードといえるでしょう。

問い合わせは生涯学習推進課市史編纂（☎754・6674）



10月5日、市史編纂委員会が市長へ『新修池田市史』の完成報告を行いました



大阪大学総合学術博物館で展示中の『池田酒史』（教育委員会蔵）

**ギャラリーコーナー**

<p><b>【ギャラリーいけだ】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 出口彰 水彩画展 ~11/5(月)</li> <li>● 栃尾啓子・小泉昭造 水彩画二人展 11/7(水)~12(月)</li> <li>● 「花日和」吉田素子 ボタニカルアート展 11/14(水)~19(月)</li> <li>● 井上亜衛 織絵展 11/21(水)~26(月)</li> <li>● 音・色・画展（河合絵一） 11/28(水)~12/3(月)</li> </ul>	<p><b>【ギャルリVEGA】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 江原和足展“大阪にのこる街道風景”（絵画） ~11/5(月)</li> <li>● 炎の煌き 山口勝敏展—金彩備前に魅せられて— 11/7(水)~12(月)</li> <li>● 彩の会展2012（絵画） 11/7(水)~12(月)</li> <li>● 第8回朝日カルチャーセンター—川西教室 ボタニカルアート展 11/14(水)~19(月)</li> <li>● 手作りハウス（辻下とし子・小堺玲子・柳井真理江） 11/21(水)~26(月)</li> <li>● 吉永沙母 アクリル絵画個展 11/21(水)~26(月)</li> <li>● キルティングikkoのパッチワーク展 11/28(水)~12/3(月)</li> </ul>
--	---

**【開館時間】** 10：00～19：00（最終日は16：00まで）  
**【休館日】** 火曜日  
**【入館料】** 無料  
**【使用料】**  
 〈ギャラリーいけだ〉5万円（展示販売不可）  
 〈ギャルリVEGA〉15万円（ブロックの分割使用＝7・10万円＝、展示販売も可）  
**【使用期間】** 水～翌週月曜日の6日間  
**【申し込み】** 使用希望月の1年前から

**使用申し込みは**  
 財団法人市民文化振興財団  
 （☎750・3333）

わがまち  
歴史散歩

市史編纂だより<sup>み</sup>89

少年・佐治敬三と池田

ウイスキーのレジェンド

今年3月、イギリス・パラグラフパブリッシング社から刊行されているウイスキー専門誌『ウイスキーマガジン』に「世界のウイスキー、100人のレジェンド」が発表されました。世界五大ウイスキーの産地・日本からは4人が選ばれ、うち2人はサントリー歴代社長の鳥井信治郎（1879～1962）・佐治敬三（1919～99）父子でした。

鳥井は大正13（1924）年、山崎（大阪府島本町）の地で日本初の本格ウイスキー蒸留を開始し、4年後に初の国産品を販売しました。佐



佐治敬三が編集した『ホームサイエンス』昭和21年12月号（ケンシヨク「食」資料室所蔵）

治は「洋酒の寿屋」として、高級品のウイスキーの大衆化に貢献する一方、和食とウイスキーの相性を追求し、ジャパニーズ・ウイスキーの確固たる地位を築きました。この昭和を代表する経営者は、池田とその周辺で少年時代を過ごしました。

家なき幼稚園の「ごんた」

大正12年、鳥井家は煙の都・大阪から、郊外の雲雀丘（川西市）へと居を移します。当時の宝塚沿線には、箕面有馬電気軌道（現阪急電鉄）が分譲した池田新市街「室町住宅」を皮切りに、閑静な郊外住宅地が開発されつつありました。

転居当時4歳だった佐治は、雲雀丘の家なき幼稚園に入園します。家なき幼稚園は近代幼児教育史に異彩を放つ独特の教育方針を持ち、園舎を持たない屋外幼稚園でした。橋詰良一（通称せみ郎）が大正10年に室町住宅の中央、呉服神社に開園した後、雲雀丘や宝塚など北摂地域にも設置されました。

家なき幼稚園でのびのびと育った佐治は相応な「ごんた」（いたずらっこ、わんぱく小僧）だったらしく、女の子をいじめたりもしていたそうです。

池田の教育環境

佐治は大阪府池田師範附属小学校（現大阪教育大学附属池田小学校）に入学し、阪急電車で通いました。小

学校でも「ごんた」は健在で、同窓会ではその話題で盛り上がったそうです。1年生1学期の通信簿は甲乙丙丁の4段階の「乙」ばかりで、兄から「アヒルの行列」とからかわれるなど、出来のよい子どもではなかったと自身で振り返っています。

しかし、4年生からは一転し、通信簿にはすべて「甲」が並ぶようになり、中学校は浪速高等学校（後の大阪大学教養部）尋常科に進みまし。なお、進学を機に佐治家の養子となりませんが、これまで通り鳥井家で暮らし、雲雀丘から待兼山へ通学しました。

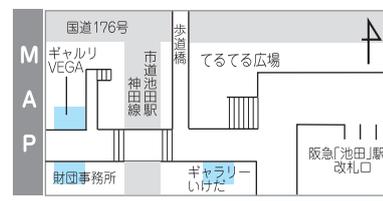
その後、大阪帝国大学理学部（大阪市北区）に進学し、海軍を経て寿屋に入社します。寿屋ではPR誌『洋酒天国』などを通じ、「洋酒のある生活」を提案していくことになりました。「やってみなはれ」精神といわれる自由・進取・挑戦の社風は父譲りのものですが、池田周辺の教育環境も幾分か影響しているのではないでしょう。

（大阪大学総合学術博物館助教・松永和浩）

問い合わせは生涯学習推進課市史編纂（☎754・9295）

日本のウイスキー・清酒・ビールの歴史や技術を紹介する展覧会「ものづくり 上方・酒・ばなし 先駆・革新の系譜と大阪高工醸造科」が、大阪大学総合学術博物館で開催中（23日参照）。

ギャラリーコーナー



<p>【ギャラリーいけだ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●音・色・画展（河合絵一） ～12/3(月)</li> <li>●中山光弘水彩画展“みずえの彩り” 12/5(水)～10(月)</li> <li>●三谷照男・水彩画回顧展2 12/12(水)～17(月)</li> <li>●2012 FINAL Exhibition 12/19(水)～24(祝)</li> <li>絹絵の世界展 久保義浩</li> </ul>	<p>【開館時間】 10：00～19：00（最終日は16：00まで）</p> <p>【休館日】 火曜日、12/26日(水)～1/7(月)</p> <p>【入館料】 無料</p> <p>【使用料】</p> <p>〈ギャラリーいけだ〉5万円（展示販売不可）</p> <p>〈ギャラリーVEGA〉15万円（ブロックの分割使用＝7・10万円＝、展示販売も可）</p> <p>【使用期間】 水～翌週月曜日の6日間</p> <p>【申し込み】 使用希望月の1年前から</p>
<p>【ギャラリーVEGA】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●キルティングikkōのパッチワーク展 ～12/3(月)</li> <li>●七彩会展（絵画） 12/5(水)～10(月)</li> <li>●Ribbon Lei Anuhea 12/12(水)～17(月)</li> <li>ハワイアンリボンレイ作品展</li> <li>●SUCANPIN展（絵画） 12/12(水)～17(月)</li> <li>●大阪青山短期大学・第7回「アソビと造形」展 12/19(水)～24(祝)</li> </ul>	<p>使用申し込みは （財）いけだ市民文化振興財団 ☎750・3333</p>



池田市史編集委員会委員  
芝村篤樹

これは、俳人の中村草田男が1931（昭和6）年に作った句という。明治が終わったのは1912（明治45）年だから、中村が「遠い」と感じた明治は20年ほど前に終わったばかり。しかし、明治以後の日本は変わり身が早い。モダンボーイ・モダンガールが街を歩き、同時に戦争と軍国主義の足音が高まりつつあった時代から見れば、既に明治の情景は遠かったのだろつ。

戦後という時代の区切りは、第二次世界大戦が終了した1945（昭和20）年8月に始まる。1995（平

わがまち  
歴史散歩

市史編集だより 婿

「戦後」と「戦後池田」  
について考える

降る雪や

明治は遠くなりけり

成7）年は戦後50年であった。1月に阪神・淡路大震災が発生し、3月にはオウム真理教による地下鉄サリン事件が起こった。50年という節目と時代の変化を実感する二つの大きな出来事とあいまって戦後論がにぎわい、改めて戦後を意識した人も少なくなかった。現在に至るまで、さらに時間が経過した。世紀の転換を挟み、戦後はほとんど古希（70年）に近い歳月を重ねた。

木枯らしや

戦後は遠くなりけり

筆者の下手なざれ句である。明治を遠いと感じた中村の時間に比べ、戦後は3倍以上なのだから遠いのは当然である。食うや食わずの焼け跡・闇市の時代から、経済成長の時代を経て長期不況と格差社会の現代へと、ざつと振り返ってもこの間に目まぐるしい変転を遂げた。こんなにも長い時間、こんなにも変転をはらんだ歴史を、今も戦後としてひとまとめに考えることはできるのだろうか。戦後は終わったという人もあれば、終わっていないという主張もある。

戦後の価値観や意識を守るべきか変えるべきか「戦後」への評価にかかわって、日本国憲法の扱いを巡る対立はホットな政治的課題である。日本は「長い戦後」といわれる。第二次世界大戦には多くの国が参戦した。それぞれの国に戦後はあるけれど、日本ほど戦後を長く引きずる国

は少ないという。

『新修池田市史』

第四巻（現代編）

筆者は、見出しの『新修池田市史』第四巻の編集と執筆を担当させてもらった。1945年8月から以後の戦後史である。1945年を始まりとし、原則として20世紀の終わる2000年までを対象とした。編集と執筆の際、いつも念頭にあったのは「戦後」とは何か、本市の戦後をどうとらえるかということであった。共同執筆者と事務局の奮闘のおかげで、池田の戦後の姿をこれまでになく明らかにできたと自負している。とはいえ、編集と執筆の際にいつも念頭にあった問いは、本が刊行された今も消えない。戦後とは何か、池田の戦後をどうとらえるか。

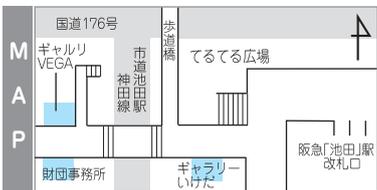
これからしばらくこの紙面をお借りして、消えない疑問を探る旅に出たい。どうせ終着のない旅だから、寄り道ばかりになるだろうけれど。



新修池田市史

問い合わせは生涯学習推進課市史編纂（754・6674）

ギャラリーコーナー



【ギャラリーいけだ】	
日本画 久保義浩展	1/9 ~14
染二人展（谷野吉冬・やまもと正二）	1/16 ~21
池田市ゆかりの作家展	1/23 ~28
4scene（川村信子・金井良勝）	1/30 ~2/4

【ギャラリーVEGA】	
徳治昭童画展～ほっこりワールド～	1/9 ~14
染group70up展	1/16 ~21
横関千恵子 布絵作品展	1/23 ~28
カルチャーサロン半蔵3人展	1/23 ~28
遊“織”色（さをり織教室展）	1/30 ~2/4
カルチャーVEGA教室 春展	1/30 ~2/4

【開館時間】10:00～19:00（最終日は16:00まで）  
 【休館日】1/1～7、火曜日  
 【入館料】無料  
 【使用料】  
 ギャラリーいけだ 5万円（展示販売不可）  
 ギャラリーVEGA 15万円（ブロックの分割使用＝7・10万円＝、展示販売可）  
 【使用期間】水～翌週月曜日の6日間  
 【申し込み】使用希望月の1年前から

使用申し込みは  
いけだ市民文化振興財団  
（750・3333）